

神奈川県代表として4年連続4回目の出場を果たした

祝 全国大会

2年連続で

銅

メダル



その壁はまだ少し高く越えることはできなかった。
しかし今年もセンターコートに立ち
全国「第2位」という
輝かしい成績を残した
男子バレーボール部は
橘定の誇り

第四十四回全国高等学校定時制・通信制バレーボール大会
一年間目ざし続けたのは全国の頂点

夕チスポ

橘高等学校定時制
運動部通信
2017.8.30
第37号



熱く戦いぬいた夏

平塚アリーナ 8月2日~6日

我々はこの場所に帰ってきた。昨年3回目の出場、最終日のベスト4に残り第3位になった時と同じ場所、同じコート。今年もシード権があり、予選は岡山県代表チームに25-17、25-18で勝利。決勝トーナメント1回戦はシード。2回戦は大阪代表チームに25-19、25-14。準決勝は福岡県代表チームに25-14、25-19と圧勝だった。昨年は苦しみながら勝ち上がったが、今年は苦しみながらも、今年が昨年残したシード権があり、順当に最終日に残った。しかし、この最終日の戦いに残るために一年間頑張ってきたのは事実。この一年間、全日制の大会にもすべて出場した。出場するだけでなく、最高は川崎市で5位、神奈川県で2回戦進出と結果も残してきた。そして毎日の練習。その結果、最終日のコートに立つことができた。それでも、決勝のセンターコートに立つことはできなかった。敗戦の後、最後となる4年の須藤、安東、更科、川野は涙していた。苦しみながらも頑張ってきた証だと思ふ。新チームになり、新たな戦いが始まる。全国大会2年連続準決勝敗退。この悔しさを胸に、また来年もこの場所に帰ってくることを誓って、平塚アリーナをあとにした。(バレーボール部顧問 松本博臣)

予選リーグ

橘 2	(25-7)	0	鳥 城
	(25-18)		(岡山県)
※グループ1位通過			

決勝トーナメント

◆ 2回戦 ◆	橘 2	(25-9)	0	大阪市立中央
		(25-14)		(大阪府)
◆ 準々決勝 ◆	橘 2	(25-14)	0	県立博多青松
		(25-19)		(福岡県)
◆ 準決勝 ◆	橘 0	(15-25)	2	飛鳥未来
		(19-25)		(北海道)

女子バレーボール部のサポートもあって堂々の全国第3位



準決勝で敗れた悔しさを胸に
来年もこの場所に帰ってくることを誓う...

川野優希 4年
須藤 安東 更科 川野が
流した涙は 苦しみながらも
頑張ってきた証！



優秀選手賞受賞

